

授業科目 社会福祉学特論Ⅱ	科目概要・形式 2 単位 30 時間(15 コマ) 演習	配当年次 博士前期 1 年次 後期開講	オンライン参加 <input checked="" type="checkbox"/> ・不可
科目責任者	工藤 英明		
担当者	工藤 英明、児玉 寛子、瀧澤 透、高阪 悌雄、坂下 智恵、権 順浩、 田中 尚樹、小山 宰		
1. 科目のねらい・目標			
<p>この科目のねらいは、社会福祉全分野の特定課題に対するさまざまな研究・フィールドワークの方法や分析方法、研究倫理などを理解し、実際、実証・臨床研究への応用力、計画力、分析力、妥当性確認に必要な力を身につけることである。そのための具体的な目標としては、①研究目的や仮説に基づき、福祉現場の課題に即した調査・フィールドワーク等の方法を選定し、その概要を具体的に整理することができる。②対象者や支援現場の特性を踏まえ、調査・フィールドワーク等の実施計画を検討し、実践的な計画書を作成することができる。③研究倫理の観点から、計画書の妥当性や個人情報保護、対象者への配慮など倫理的側面を検討・確認することができる。④実践研究に必要な研究倫理審査申請書を作成し、適切な倫理的手続きを経て研究を遂行することができる。</p>			
2. 授業計画・内容			
第1回 オリエンテーション <ul style="list-style-type: none"> ・科目の目的や授業の進め方、評価基準について説明を行う。個別研究計画の進捗状況と今後の計画について発表を行う。 			
第2回 社会福祉研究の方法論 <ul style="list-style-type: none"> ・社会福祉学における研究分野別の特性と方法について説明、ディスカッションを行う。 ・課題：個別研究テーマ、または類似な研究デザインの先行研究事例を調べる。 			
第3回 実証研究と臨床研究 <ul style="list-style-type: none"> ・実証研究と臨床研究の特徴と相違について説明したうえで、前回出された課題について発表、個別研究デザインへの適用可能性、独自性、調査方法などについてディスカッションを行う。 ・課題：研究方法論で学んだアンケート調査の特徴や調査設計、質問紙作成の留意点、妥当性などをまとめてから、各自研究目的、仮説、課題に沿って質問項目案を作成する。 			
第4回 調査研究法Ⅰ（量的） <ul style="list-style-type: none"> ・アンケート調査の特徴や質問紙作成の留意点、妥当性、設計方法などに前回出された課題について発表してから、アンケート調査を行った各種報告書や先行研究などの事例をもってディスカッション、フィードバックを行う。 ・課題：各自の研究テーマに応じた質的調査の特徴や設計方法、留意点などをまとめてから、個別研究目的、仮説、課題に沿って質的調査デザインを検討する。 			
第5回 調査研究法Ⅱ（質的） <ul style="list-style-type: none"> ・面接法や観察法といった質的調査の特徴と設計方法、留意点など前回出された課題について発表し、質的研究事例をもってディスカッション、フィードバックを行う。 ・課題：アクション・リサーチやフィールドワークの特徴や調査の手順、留意点などについて調べ、まとめてから、個別研究目的・仮説・課題に応じた調査設計を検討する。 			
第6回 フィールドワーク（実践研究）調査 <ul style="list-style-type: none"> ・アクション・リサーチやフィールドワークの特徴や調査の手順、留意点など前回出された課題について発表、ディスカッション、フィードバックを行う。 ・課題：アンケート調査の多様な分析方法についてまとめから、個別研究仮説・研究課題に沿って分析法を検討する。 			
第7回 分析方法Ⅰ（量的） <ul style="list-style-type: none"> ・前回出された課題について発表してから、各自が検討した分析方法についてディスカッション、フィードバックを行う。 ・課題：多様な質的調査の分析方法についてまとめてから、個別研究仮説・研究課題に沿って分析法を検討する。 			

第8回 分析方法Ⅱ (質的)

・前回出された課題について発表してから、各自が検討した分析方法についてディスカッション、フィードバックを行う。

・課題：第4回～第8回のディスカッションやフィードバック内容をふまえて、個別研究仮説・研究課題に沿った調査計画案を作成する。

第9回 調査計画発表

・前回出された各自の調査計画案を発表してから、ディスカッション、フィードバックを行う。

・課題：ディスカッションとフィードバック内容をふまえて、調査計画案を修正する。

第10回 研究倫理FD研修

・本学研究倫理委員会主催のFD研修動画を視聴してから、倫理的配慮・インフォームドコンセントについてディスカッションを行う。

第11回 研究倫理コース履修

・本学が指定するAPRIN e ランニングプログラム (公正研究推進協会) を履修する。

第12回 研究倫理審査申請書作成Ⅰ

・研究倫理審査委員会の役割と仕組み、審査のプロセスと審査基準、研究倫理審査申請書の様式、記載例、必要な添付資料などについて説明、確認してから、研究倫理審査申請書を作成する。

第13回 研究倫理審査申請書作成Ⅱ

・前回作成した研究倫理審査申請書草案を発表、ディスカッション、フィードバックを行う。

・課題：ディスカッションとフィードバック内容をふまえて、研究倫理審査申請書草案を修正加筆する。

第14回 倫理審査申請書作成Ⅲ

・修正加筆した研究倫理審査申請書草案を各自発表、ディスカッション、フィードバックを行う。

・課題：ディスカッションとフィードバック内容をふまえて、研究倫理審査申請書草案を修正加筆する。

第15回 成果発表と総括

・研究計画発表会で調査計画について発表を行う。

・社会福祉学特論Ⅱの総括と社会福祉学特論Ⅲのガイダンスを行う。

3. 教科書、参考書

指定の教科書は設けず、各科目担当者が随時必要な文献を指示する。

4. 成績評価方法

・研究計画書 (30%)

・倫理審査申請書 (40%)

・授業内演習・発表 (30%)

5. 受講要件

・社会福祉学または関連分野、社会調査の基礎知識を有していることが望ましい。

・社会福祉学特論Ⅰを履修した者のみに履修できる。

・社会福祉士の資格を有する者は、認定社会福祉士制度のその他科目研修 (論文指導系科目群) 8 単位のうち、2 単位となる。

・認定社会福祉士制度のその他科目研修 (論文指導系科目群) 8 単位を履修するためには、社会福祉学特論Ⅰ～Ⅳのすべての科目を履修しなければならない。

6. 社会人学生に対する配慮

受講者と相談した上で、夜間開講、土日開講、夏季集中講義などを検討する。詳細については指導担当教員の指示に従ってください。

7. その他

・本科目は、特別研究または課題研究の指導担当教員が担当する科目です。詳細については指導担当教員の指示に従ってください。

・オンデマンドは不可とします。

・研究の成否は、データ収集や分析以前に「計画の質」で大きく決まります。この授業では、現場に即した研究計画の立案から倫理審査申請までを、実務に沿った形で体験できます。修士論文の準備段階として積極的に取り組んでください。